# 近代日本の発展を陰で支えた井戸掘り技術



| 登録番号 | 第０６８号 |
|---|---|
| 名称（型式等） | 上総掘り |
| 所在地 | 千葉県木更津市・君津市・袖ケ浦市 |
| 設立（竣工）年 | 明治 20(1887)～30(1897)年頃 |

## 選定理由

本県の西上総地方の小櫃（おびつ）川・小糸川流域では、江戸時代後期に「突き掘り」という高い櫓（やぐら）から重い鉄棒を落下させ、先端で突いて掘削する井戸掘りの工法が伝わりました。この工法や用具に工夫・改良が加えられ、明治 20（1887）～30（1897）年頃に完成した掘り抜き井戸の工法が「上総掘り」です。

上総地方の地質が、自噴（じふん）しやすく掘り抜き井戸の掘削に適していたこともありますが、上総掘りは 2、3 人の井戸掘り職人で、動力や大掛かりな設備を使わずに簡単な道具（ホリテッカン・スイコ・タケヒゴ・ヒゴグルマ・ハネギ・シュモク等）と身近に入手できる材料（丸太・板・竹・縄・粘土水）を使って 150～500m 程度の深さの井戸が掘削できるという画期的な工法です。加えて、経費面・安全性・技術習得面など、それまでの工法に比べ非常に優れていたため、上総地方の職人が各地に出向き、全国に広まりました。上総掘りの名称は、上総式の工法という意味で認知されるようになったと考えられています。

農業用・家庭用のほか、醸造などの産業用の井戸の掘削として使用されただけではなく、温泉・石油・天然ガスの掘削や鉱山の試掘にも用いられ、日本の農業や産業の発達に大きく関わりました。第二次世界大戦後は上総掘りも手掘りから機械掘りに代わり、大幅に工程が短縮されましたが、ボーリング技術の普及・上水道の整備、耕地でのポンプ利用・土地改良が進み、減反政策がとられた昭和 45（1970）年以降は、掘削の姿は見られなくなりました。

木更津市・君津市・袖ケ浦市などの各市内を中心にその周辺地域では、現在でも上総掘りによるいくつもの掘り抜き井戸が見られ、農業用水・生活用水などに利用されています。

木更津市郷土博物館 金のすずで常設展示している「上総掘りの用具」は、重要有形民俗文化財に指定されています。また君津市立久留里城址資料館では、上総掘りのアシバや利用関係資料などを常設展示しています。袖ケ浦市郷土博物館では、常設展示のほか重要無形民俗文化財に指定されている「上総掘り技術伝承会」による技術の伝承が行われています。

木更津市郷土博物館 金のすずにおける上総掘りの用具の展示

農業用共同井戸の掘削（アシバ）
小倉鑿井工業蔵
君津市立久留里城址資料館提供

袖ケ浦市郷土博物館における上総掘り掘削体験
袖ケ浦市郷土博物館提供

協　　力：木更津市郷土博物館 金のすず、君津市立久留里城址資料館、
袖ケ浦市郷土博物館

参考文献：『上総掘り』千葉県立上総博物館偏、『上総掘り』君津市立久留里城址資料館編